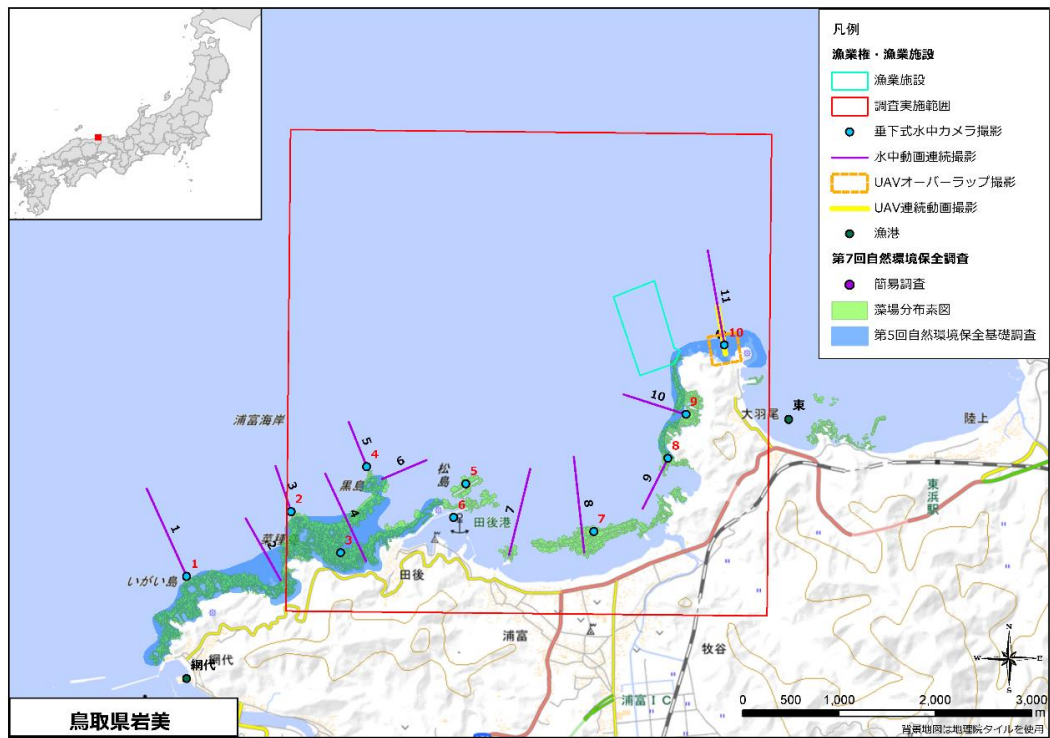


(1) 調査海域名	本州南部日本海沿岸海区 岩美
(2) 調査海域の所在	鳥取県岩美郡岩美町周辺

(3) 調査海域及び調査位置図



(4) 調査位置の詳細 (JGD2011)

詳細な位置情報は掲載しておりません。詳細な位置情報を希望される場合は、藻場調査ウェブサイトの「現地調査の結果」の「調査結果（データ）」をご覧ください。

【水中動画連続撮影】

ライン 番号	始点		終点		測線距離 (m)
	緯度	経度	緯度	経度	
1	-	-	-	-	1,000
2	-	-	-	-	750
3	-	-	-	-	500
4	-	-	-	-	1,000
5	-	-	-	-	500
6	-	-	-	-	500
7	-	-	-	-	900
8	-	-	-	-	1,000
9	-	-	-	-	600
10	-	-	-	-	600
11	-	-	-	-	1,000
総測線距離					8,350

【垂下式水中カメラ撮影】

スポット 番号	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-

【 UAV 撮影（オーバーラップ撮影）】

調査 地点	緯度		経度	
A	-	-	-	-
B	-	-	-	-
C	-	-	-	-
D	-	-	-	-

(5) 調査年月日

船上作業：令和2年7月7日、7月8日
UAV：令和2年7月8日

(6) 調査者

三洋テクノマリン株式会社 代表：北野慎容
株式会社エアロ・フォト・センター 代表：三好裕也

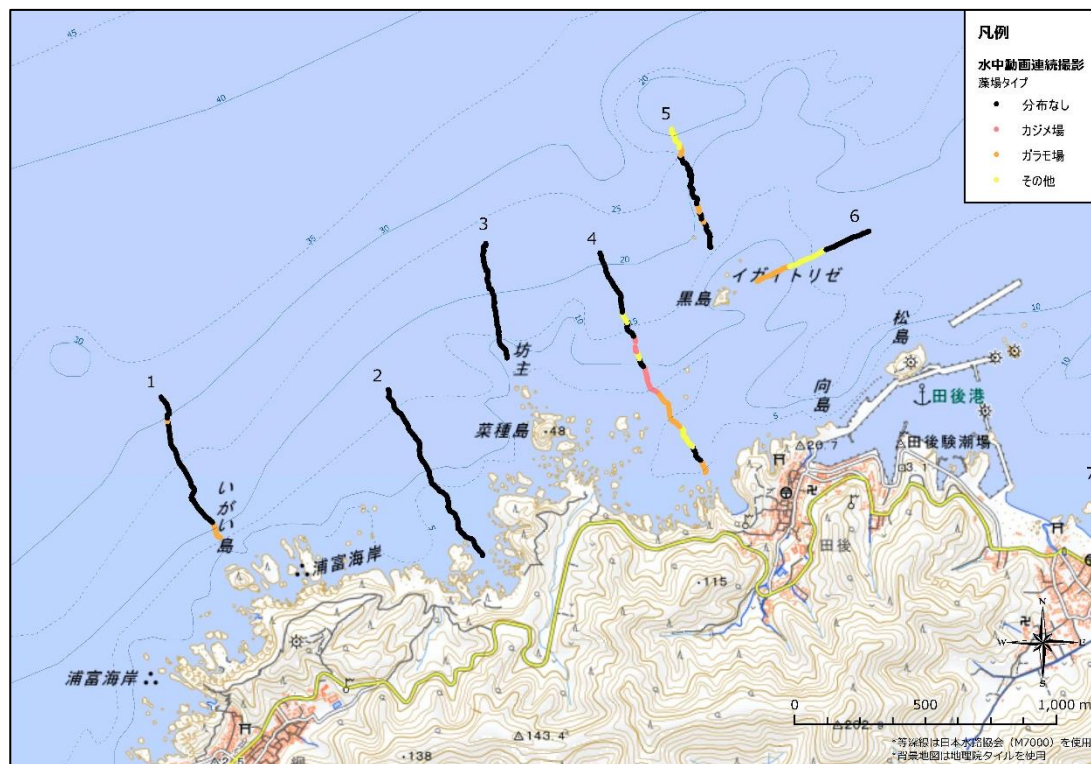
(7) 調査海域の概要

岩美地先は鳥取県内で限られた岩礁域が存在する海域であり、ホンダワラ科の海藻やクロメを中心に群落がみられる。夏季の継続的な高水温などの影響によって藻場の衰退が懸念されている（太田ら，2018）。年間平均風速は8.0 m/s以上であり（NeoWinds）、洋上風力施設の設置可能な海域（極浅海域・砂質域）が近隣に存在する。

《参考》太田ら（2018）鳥取県東部大谷海岸における藻場の季節消長と魚類相把握の試み，地域イノベーション研究，第5巻，24-33 / NeoWinds（洋上風力マップ）

(8) 調査結果

【水中動画連続撮影】○測線1～測線6の状況



測線 1 の状況： 測線 1 は、水深約 15～35 m に設定にされ、底質は岩盤と砂質域が混在する測線であった。水深約 15～29 m までの岩盤上ではエンドウモク等のホンダワラ科の海藻（最大被度 20%）が主にみられ、一部には褐藻綱の海藻がみられた。水深約 30 m 以深の岩盤上ではエンドウモク（最大被度 5%未満）がみられた。

測線 2 の状況： 測線 2 は、水深約 5～13 m に設定され、底質は砂質域であった。測線において海藻草類はみられなかった。

測線 3 の状況： 測線 3 は、水深約 17～18 m に設定され、底質は砂質域であった。測線において海藻草類はみられなかった。

測線 4 の状況： 測線 4 は、水深約 5～16 m に設定され、底質は岩盤や礫、砂質域が交互にみられる測線であった。水深約 5～11 m までの岩盤や礫上ではノコギリモクやヤナギモク（最大被度 40%）が主にみられ、一部にはクロメがみられた。水深約 12 m 以深の岩盤や礫上ではクロメ（最大被度 20%）が主にみられ、一部にはヤナギモクやノコギリモク、紅藻綱の海藻がみられた。

測線 5 の状況： 測線 5 は、水深約 19～26 m に設定され、底質は岩盤や礫帯と砂質域が交互にみられる測線であった。岩盤や礫上ではエンドウモク（最大被度 30%）が主にみられ、一部にはウミウチワがみられた。

測線 6 の状況： 測線 6 は、水深約 7～19 m に設定され、底質は岸よりは岩盤や礫、沖よりは砂質域となる測線であった。水深約 7～16 m までの岩盤や礫上ではノコギリモクやヤナギモク（最大被度 60%）が主にみられ、一部にはクロメや有節サンゴモがみられた。水深約 17～18 m まで岩盤や礫上ではウミウチワ（最大被度 10%）が主にみられ、一部にはクロメがみられた。

○測線 7 ～ 測線 9 の状況

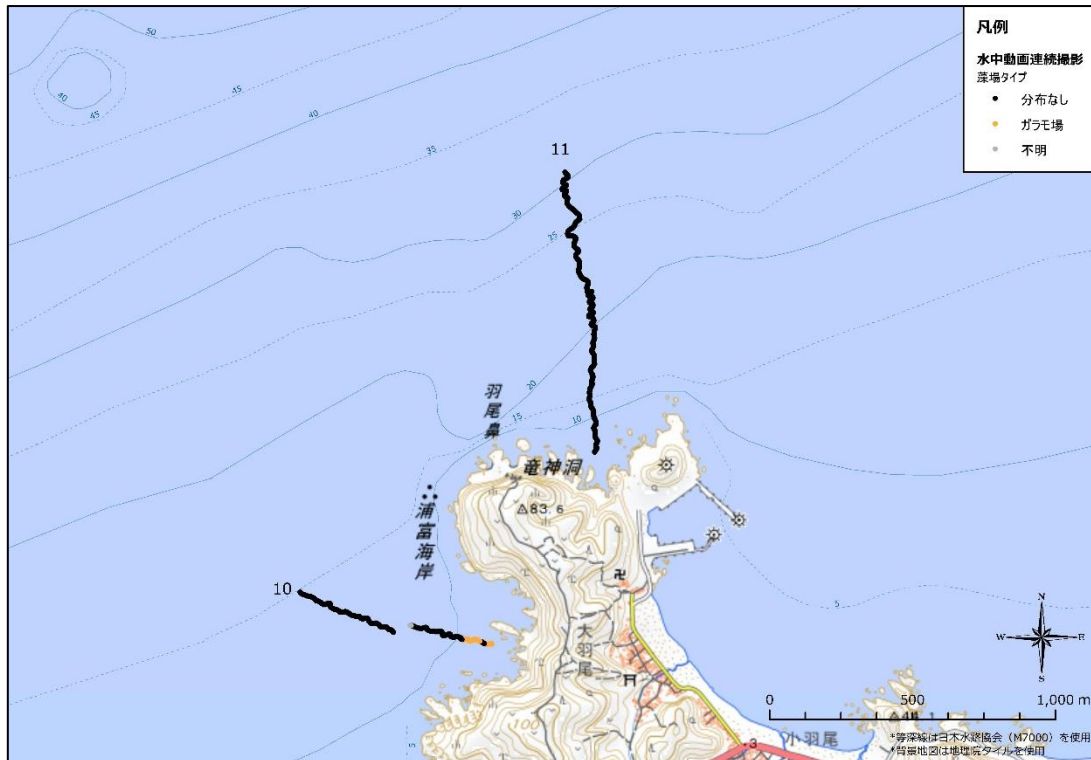


測線 7 の状況： 測線 7 は、水深約 3～8 m に設定され、底質は砂質域であった。測線において海藻草類はみられなかった。

測線 8 の状況： 測線 8 は、水深約 2～11 m に設定され、底質は巨礫帯と砂質域が交互にみられる測線であった。水深約 2～6 m まで岩盤や礫上ではワカメ（最大被度 30%）が主にみられ、一部にはウミウチワがみられた。水深約 7～11 m までの岩盤や礫上では、ヤツマタモクやマメタワラ（最大被度 80%）が主にみられ、一部にはワカメやウミウチワがみられた。砂質域では、海藻草類はみられなかった。

測線 9 の状況： 測線 9 は、水深約 6～7 m に設定され、底質は岸よりは岩盤や礫、沖よりは砂質域となる測線であった。水深約 6 m 付近の岩盤や礫上ではヤツマタモクやノコギリモク（最大被度 50%）がみられた。水深約 7 m 付近の岩盤や礫上ではクロメ（最大被度 5%）が主にみられ、一部にはワカメや紅藻網の海藻がみられた。

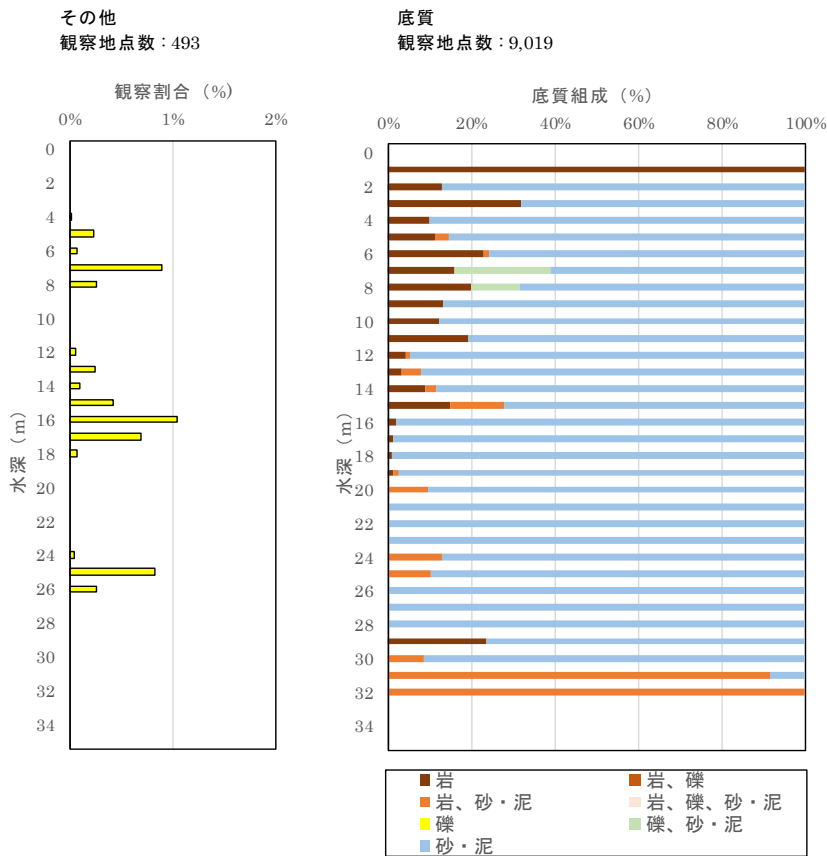
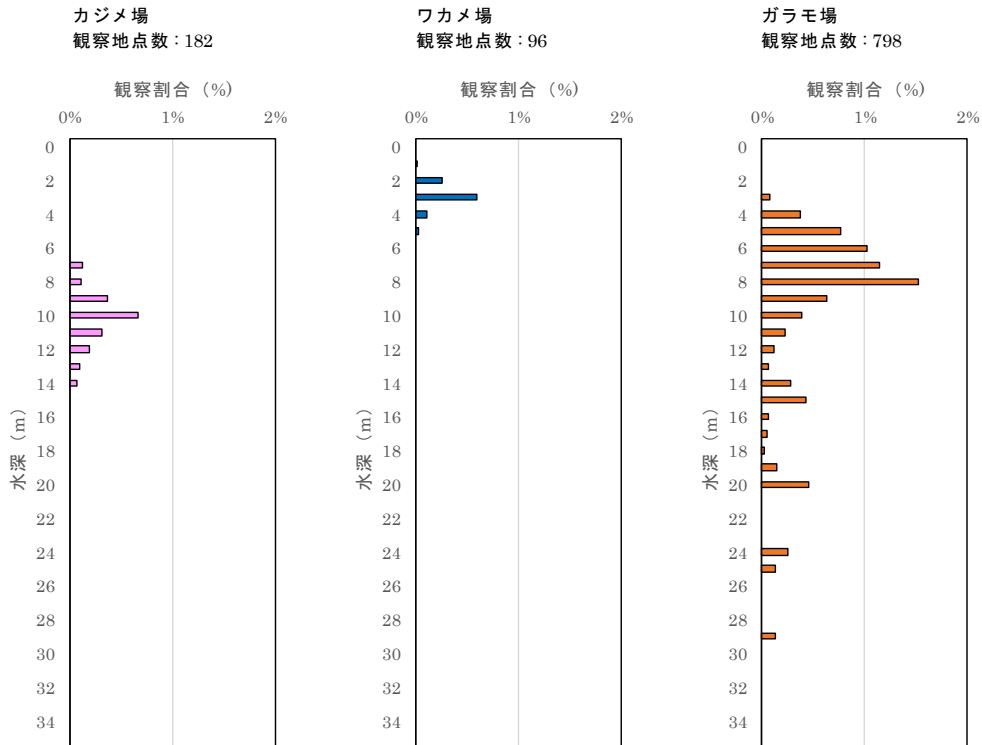
○測線 10 ～ 測線 11 の状況



測線 10 の状況： 測線 10 は、水深約 8～15 m に設定され、底質は岸よりは岩盤に礫が混在、沖よりは岩盤帯と砂質域が交互にみられる測線であった。岩盤上にはヨレモク等のホンダワラ科の海藻（最大被度 20%）が主にみられ、一部には紅藻網の海藻がみられた。砂質域では海藻草類はみられなかった。

測線 11 の状況： 測線 11 は、水深約 12～24 m に設定され、底質は岸よりは岩盤、沖よりは砂質域となる測線であった。測線において海藻草類はみられなかった。測線上の一部上空で UAV 連続動画撮影を行った。

【各藻場タイプにおける鉛直頻度分布図】



注：観察割合 = 各藻場タイプが観察された地点数 / 総観察地点数 9,517 地点

【垂下式水中カメラ撮影】

垂下式水中カメラ撮影の結果は以下のとおりで、岩盤や礫上ではノコギリモク、ヨレモク、ヤナギモク、エンドウモク、ホンダワラ科の海藻や、クロメ、ワカメ、小型海藻（ウミウチワ等）がみられた。

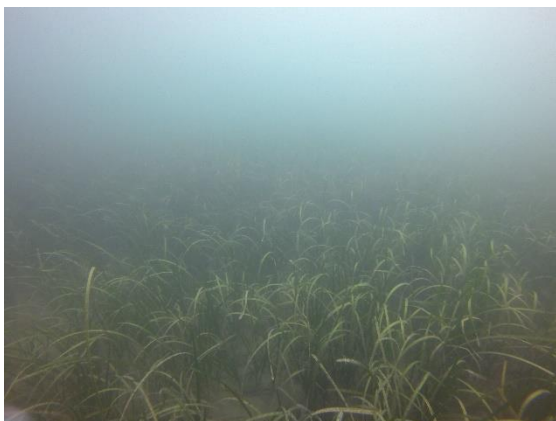
地点番号	水深 (m)	主要な構成種	底質	備考
1	13.8	ホンダワラ科 (ノコギリモク等) 60%	1	岩盤の天端面にホンダワラ科が生育
2	16.9	分布なし	4	砂質域が一面に広がる
3	5.6	ホンダワラ科 (ノコギリモク、ヨレモク、ヤナギモク) 30%	3	—
4	19.8	エンドウモク 10%、ウミウチワ+	1, 2, 4	—
5	9.8	クロメ 80%、アミジグサ科+	1, 2	消波ブロック上にクロメが生育
6	6.2	アマモ 80%	4	—
7	2.5	ワカメ 50%	2	人工リーフ上にワカメが生育
8	7.2	クロメ 10%	1, 2, 4	岩盤の谷に砂が溜まる
9	8.0	ヨレモク 10%、クロメ+	1, 2	—
10	12.1	ホンダワラ科 10%	1, 2, 4	—



ヨレモク及びヤナギモク (地点3)



クロメ (地点5)



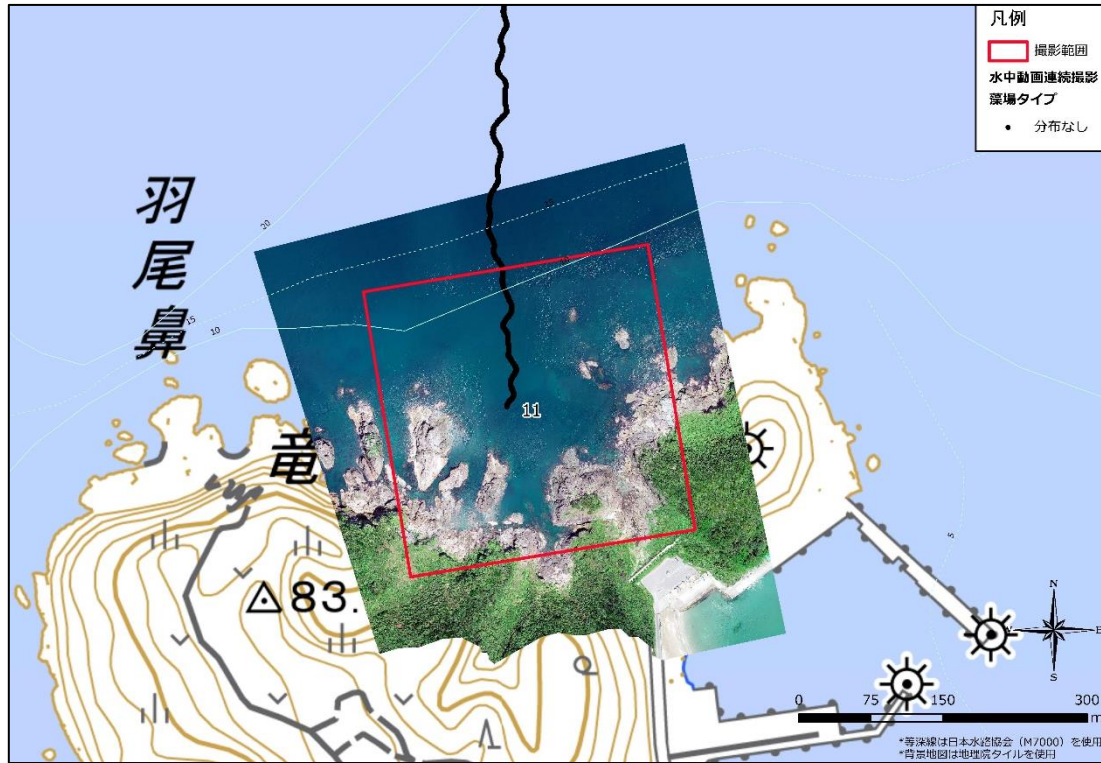
アマモ (地点6)



ヨレモク (地点9)

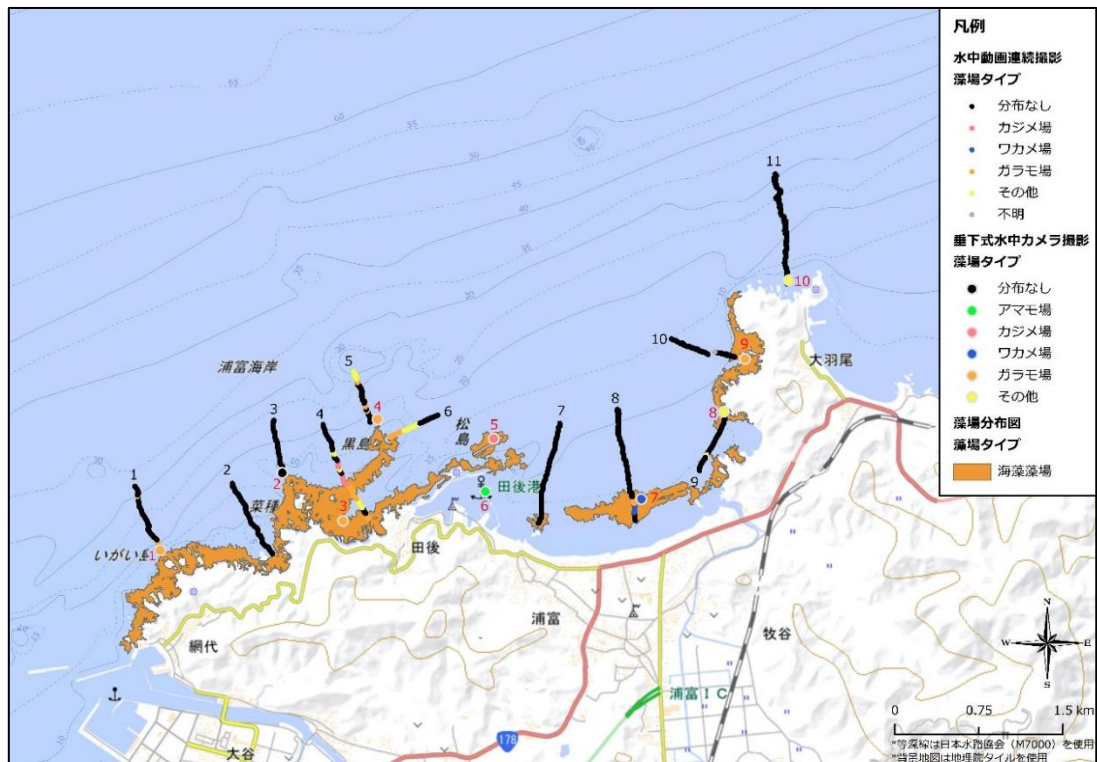
【UAV 撮影】

300 m 四方のオーバーラップ撮影の結果、300 m 四方全域でオルソ化された。その画像において、一部に藻場らしい影がみられたが、岩礁か藻場かの明確な特定には至らなかった。



撮影時間	潮位 (m)	風向・風速	波高 (m)	撮影高度 (m)	備考
11:32-11:44	CDL0.32 m	0.0 m/s	0.2 m	149.0 m	-

(9) 藻場分布図



(10) まとめ

本海域は日本海に面しており、西側は複雑な海岸線を呈する岩礁域となっており海底勾配は急峻である一方、東側は浦富海水浴場となっており海底勾配は緩やかな砂質域である。

測線における岩盤や礫上では、ノコギリモク、ヨレモク、ヤナギモク、エンドウモク、クロメが主にみられ、調査海域の東側では特に繁茂していた。浦富海水浴場の沖合に設置された人工リーフ上ではワカメなどがみられた。また、田後漁港付近の砂質域ではアマモ群落がみられた。



周辺状況（測線 1）



周辺状況（測線 4）



周辺状況（測線 11）



周辺状況（地点 7）

(11) その他特記事項

特になし